

白藍塾オリジナル

2013入試小論文分析&解答のヒント

2013年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・経済学部

大飯原発の再稼働をめぐる二つの新聞の社説を読んで答える問題。今年度は、要約・説明問題＋小論文問題の二本立てというスタイルにまた戻っている。また、テーマ的にも、2011年度以前の、現代社会の問題点を扱うオーソドックスなタイプに戻ったと言える。

設問Aは、二つの社説の異同を説明する問題。「原発再稼働のための安全基準づくりを急ぐ」「規制委（規制庁）の独立性を保証する」の二点は共通しているが、そもそも朝日が脱原発の立場に立ち、再稼働そのものに否定的なのに対して、日経は中立的な立場に立ち、再稼働の決断自体は評価している点が違っている。そうしたことを、基本型AかBを使ってまとめればよい。

設問Bは、条件が込み入っているが、原発の再稼働問題はあくまで例であって、問われているのは「意見が対立しているときに、どうやってそれを乗り越えるか」ということだ。したがって、再稼働の是非そのものをくわしく論じても、設問の意図とはかみ合わない。

対策を書く問題の書き方を応用して、第一部で対立を乗り越える方法をズバリ示した上で、第二段落で「自分の意見の内容」「それと異なる意見の内容」を説明し、第三段落で、両者の対立をどう乗り越えていくのかを具体的に説明するとよい（第四段落は省略）。

乗り越え方としては、「徹底的に議論をして、お互いに妥協できる点を見出す」「自分の意見でも友人の意見でもない、第三の立場がないかどうかを考える」「中立的な第三者の前で意見を言い合った上で、客観的に判断してもらおう」など、いくつか考えられる。それを第一部に書き、第三部で再稼働問題に即して具体的に説明すればよい。一つ目の答えであれば、「国民の生活を守るのに必要な電力の量を厳密に計算し、必要な分だけ再稼働を認めただ上、将来的には再生可能エネルギーなどで賄うことを政策目標とする」のように説明できるはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <http://www.hakuranjuku.co.jp>